

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

25年6月の牛肉生産量はわずかに減少、牛肉輸入量は大幅に増加

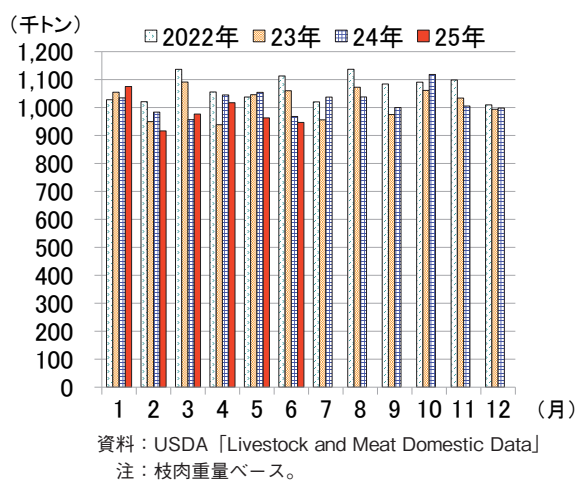
25年6月の牛肉生産量は前年同月比2.2%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年6月のフィードロット導入頭数は144万1000頭（前年同月比7.9%減）とかなりの程度、出荷頭数は170万7000頭（同4.4%減）とやや、いずれも減少した。導入頭数の減少については、牛飼養頭数の減少に加え、牧草地の改善による牛の保留や、メキシコからの肥育もと牛の輸入停止の影響があるとみられる^{（注1）}。この結果、同年7月1日時点のフィードロット飼養頭数は1112万4000頭（同1.6%減）となった。

このような中、25年6月の1頭当たり枝肉重量は392.4キログラム（同2.4%増）とわずかに増加したものの、牛と畜頭数が242万6000頭（同4.4%減）とやや減少したことにより、同月の牛肉生産量は94万7000トン（同2.2%減）となった（図1）。

（注1）米国は2025年5月11日以降、メキシコ国内におけるラセンウジバエ（NWS）の発生拡大を受け、メキシコからの肥育もと牛の輸入を停止している。なお、USDAは6月30日に「早ければ7月7日以降、段階的に輸入を再開する」との発表を行ったものの、7月9日にはメキシコからの新たな症例報告を受け、再度停止を発表している。

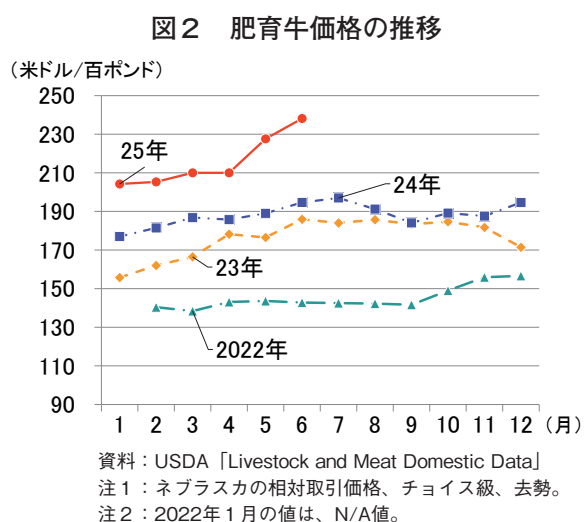
図1 牛肉生産量の推移



25年6月の肥育牛価格、前年同月比22.3%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年6月の肥育牛価格は、供給頭数の減少などから、100ポンド当たり238.13米ドル（1キログラム当たり790円：1米ドル＝150.39円^{（注2）}、前年同月比22.3%高）と前年同月を大幅に上回り、前月に続き上昇基調にある（図2）。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年7月末TTS相場。



25年5月の牛肉輸入量は前年同月比60.2%増

USDA/ERSによると、2025年5月の牛肉輸出量は10万3850トン（前年同月比11.1%減）とかなり大きく減少した（表1）。

中でも中国向けは1896トン（同90.2%減）と大幅に減少し、20年以来の最低水準となった。中国では、中国海関総署（GACC）による米国内の中国向け牛肉輸出施設再認定の動きが見られず^{（注3）}、米国から中国への牛肉輸出の大部分が停止している。

一方、同年5月の牛肉輸入量は、米国国内のと畜頭数が低水準にある中で、24万9683トン（同60.2%増）と大幅に増加した（表2）。輸入先別に見ると、ブラジル産は7万9544トン（同416.2%増）と約5倍になり、豪州産も4万6705トン（同45.1%増）と大幅に増加した。

（注3）5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた3月、GACCにより豚肉・鶏肉の輸出施設の認可登録が更新された一方で、牛肉の輸出施設の一部については未更新の状況が続いている。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 5月	25年 5月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
韓国	22,102	30,729	39.0%	29.6%	131,160	9.7%
日本	25,076	25,865	3.1%	24.9%	125,570	▲0.3%
メキシコ	12,413	11,239	▲9.5%	10.8%	58,800	▲9.7%
カナダ	10,462	8,476	▲19.0%	8.2%	43,433	▲4.8%
台湾	8,228	6,825	▲17.1%	6.6%	29,720	▲9.8%
香港	3,208	4,115	28.2%	4.0%	16,563	10.6%
フィリピン	1,888	1,975	4.6%	1.9%	8,526	▲4.8%
中国	19,328	1,896	▲90.2%	1.8%	61,615	▲32.6%
その他	14,150	12,730	▲10.0%	12.3%	59,624	▲61.4%
合計	116,855	103,850	▲11.1%	100.0%	535,011	▲5.7%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
 注：枝肉重量ベース。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 5月	25年 5月	前年同月比 (増減率)	輸入割合	25年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	15,410	79,544	416.2%	31.9%	301,943	108.9%
豪州	32,191	46,705	45.1%	18.7%	226,738	34.7%
カナダ	34,679	32,276	▲6.9%	12.9%	179,763	▲9.1%
ニュージーランド	25,607	25,488	▲0.5%	10.2%	133,307	13.5%
メキシコ	22,148	23,026	4.0%	9.2%	116,363	9.1%
ウルグアイ	11,799	21,501	82.2%	8.6%	80,149	46.1%
パラグアイ	760	7,285	858.5%	2.9%	30,924	1374.7%
その他	13,215	13,858	4.9%	5.6%	67,782	23.7%
合計	155,809	249,683	60.2%	100.0%	1,136,968	34.3%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 大西 未来)

E U

域内の需給ひっ迫で牛枝肉価格は記録的な高値が続く

25年4月の牛肉生産量、前年同月比1.9%減

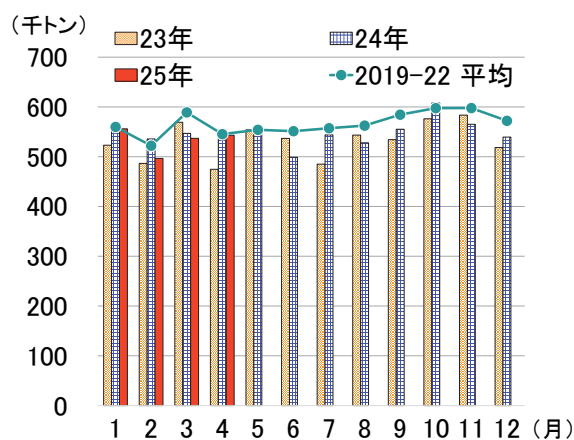
欧州委員会によると、2025年4月の牛肉生産量（EU27カ国）は54万3040トン（前年同月比1.9%減）とわずかに減少した（図1）。これは、飼料価格の下落と堅調な牛肉価格による長期肥育の傾向から、1頭当たり枝肉重量が299.5キログラム（同1.5%増）とわずかに増加したものの、飼養頭数の減少により牛と畜頭数が181万3430頭（同3.3%減）とやや減少したことが影響した。英国農業園芸開発委員会（AHDB）によると、飼養頭数の減少は、環境規制の強化などによる長期的な要因に加えて、西欧における家畜疾病による繁殖成績の低下や子牛の死亡率の上昇などが影響したためとされている。

欧州委員会は、25年7月29日に公表した農畜産物の短期的見通し^{（注1）}の中で、25年

の牛肉生産量を前年比1.3%減の656万9866トンと予測している。

（注1）海外情報「欧州委員会、食肉の短期的需給見通しを公表（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004185.html）をご参照ください。

図1 牛肉生産量の推移



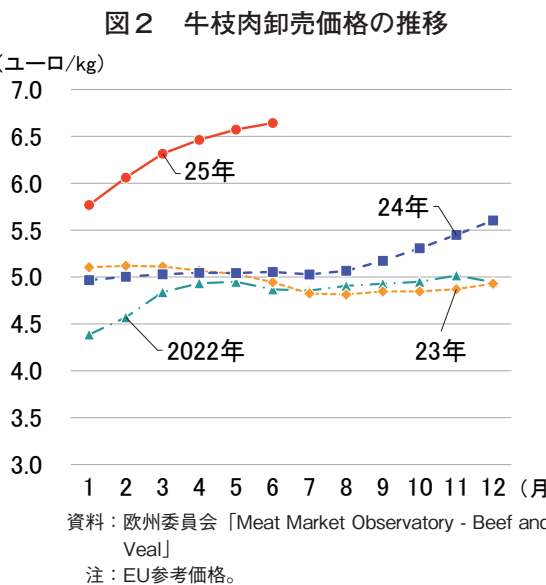
資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

25年6月の枝肉卸売価格、前年同月比31.4%高

2025年6月の牛枝肉平均卸売価格^(注2)は、1キログラム当たり6.64ユーロ（1144円、1ユーロ：172.25円^(注3)、前年同月比31.4%高）と記録的な高値が続いている（図2）。欧州委員会は、域内外での牛肉需要が堅調である一方、肥育牛の供給が限られていること



が牛肉価格の上昇につながったとしている。現地報道は、肥育牛の供給が限られ、生体価格が高値で推移しているものの、小売販売も好調であることから引き合いは強く、パッカー（食肉処理・加工業者）は利益を圧縮してまで、販売価格を下げる意図はないことから、牛枝肉価格が高値で推移していると分析している。

（注2）若雄牛（A）、去勢牛（C）および若齢牛（Z）のうち枝肉の格付けが上（R）、枝肉の脂肪の付着度合いが平均的（5段階中3）なものの平均価格（A/C/Z-R3）。
（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年7月末TTS相場。

25年1～5月の牛肉輸出量は減少、輸入量は増加

2025年1～5月の牛肉輸出量は、18万8113トン（前年同期比7.8%減）とかなりの程度減少した（表1）。域内の牛肉価格が高値で推移していることから、冷凍牛肉の輸出が同12.0%減、冷蔵牛肉の輸出は5.9%減となった。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)							
品目	輸出先	2024年 5月	25年 5月	前年同月比 (増減率)	24年 1～5月	25年 1～5月	前年同期比 (増減率)
冷蔵	英国	12,249	12,430	1.5%	62,615	63,358	1.2%
	トルコ	7,476	4,905	▲34.4%	35,621	24,228	▲32.0%
	アルジェリア	2,217	1,802	▲18.7%	11,110	14,087	26.8%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2,757	2,457	▲10.9%	13,092	10,282	▲21.5%
	スイス	1,374	1,455	5.9%	5,882	7,163	21.8%
	その他	2,332	2,900	24.4%	13,283	14,113	6.2%
	合計	28,405	25,949	▲8.6%	141,603	133,231	▲5.9%
冷凍	英国	5,924	5,378	▲9.2%	28,203	26,808	▲4.9%
	スイス	368	749	103.5%	669	3,378	404.9%
	カナダ	519	630	21.4%	2,981	2,934	▲1.6%
	ガーナ	147	1,031	601.4%	1,642	2,928	78.3%
	フィリピン	1,470	531	▲63.9%	5,576	2,565	▲54.0%
	その他	4,704	3,823	▲18.7%	23,284	16,269	▲30.1%
	合計	13,132	12,142	▲7.5%	62,355	54,882	▲12.0%
冷蔵・冷凍計		41,537	38,091	▲8.3%	203,958	188,113	▲7.8%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

また、同期間の牛肉輸入量は、域内需給の
ひっ迫や24年にアルゼンチンが牛肉輸出規
制を緩和したことなどにより、冷凍牛肉の

輸入量が同17.8%増と大幅に増加したため、
11万435トン（同4.1%増）とやや増加し
た（表2）。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

品目	輸入先	2024年 5月	25年 5月	前年同月比 (増減率)	24年 1～5月	25年 1～5月	前年同期比 (増減率)
冷蔵	英国	4,925	3,811	▲22.6%	25,572	20,312	▲20.6%
	アルゼンチン	3,201	3,571	11.6%	18,983	19,583	3.2%
	ウルグアイ	1,024	1,580	54.3%	9,127	11,330	24.1%
	ブラジル	1,608	1,520	▲5.5%	6,838	6,807	▲0.5%
	米国	1,173	1,035	▲11.8%	5,044	5,442	7.9%
	その他	1,316	1,193	▲9.3%	5,716	5,916	3.5%
	合計	13,247	12,710	▲4.1%	71,280	69,390	▲2.7%
冷凍	ブラジル	3,283	2,069	▲37.0%	17,245	18,381	6.6%
	英国	1,563	1,639	4.9%	6,195	8,017	29.4%
	ウルグアイ	820	569	▲30.6%	4,892	5,543	13.3%
	アルゼンチン	331	202	▲39.0%	1,426	3,148	120.8%
	ナミビア	158	325	105.7%	938	1,708	82.1%
	その他	679	885	30.3%	4,157	4,248	2.2%
	合計	6,834	5,689	▲16.8%	34,853	41,045	17.8%
冷蔵・冷凍計		20,081	18,399	▲8.4%	106,133	110,435	4.1%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

（調査情報部 藤岡 洋太）

豪州

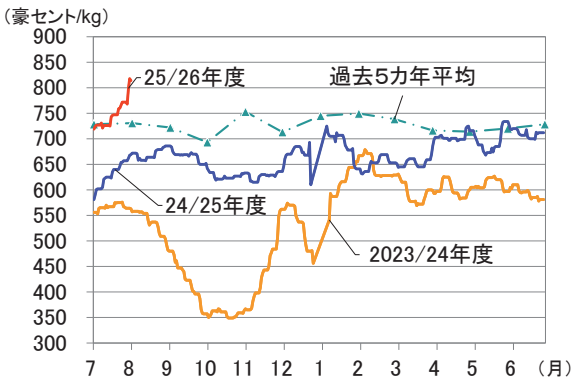
牛肉輸出量は過去最高を更新、米国・中国向け需要がけん引

25年7月若齢牛価格、牧草肥育農家の需要増で急上昇

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2025年7月以降上昇傾向で推移しており、直近7月31日時点では1キログラム当たり814豪セント（800円：1豪ドル＝98.22円^{（注1）}）と、3年ぶりに800セント台を突破した（図1）。

この要因について現地アナリストは、主要肉用牛生産地域であるクイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州を中心とした

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

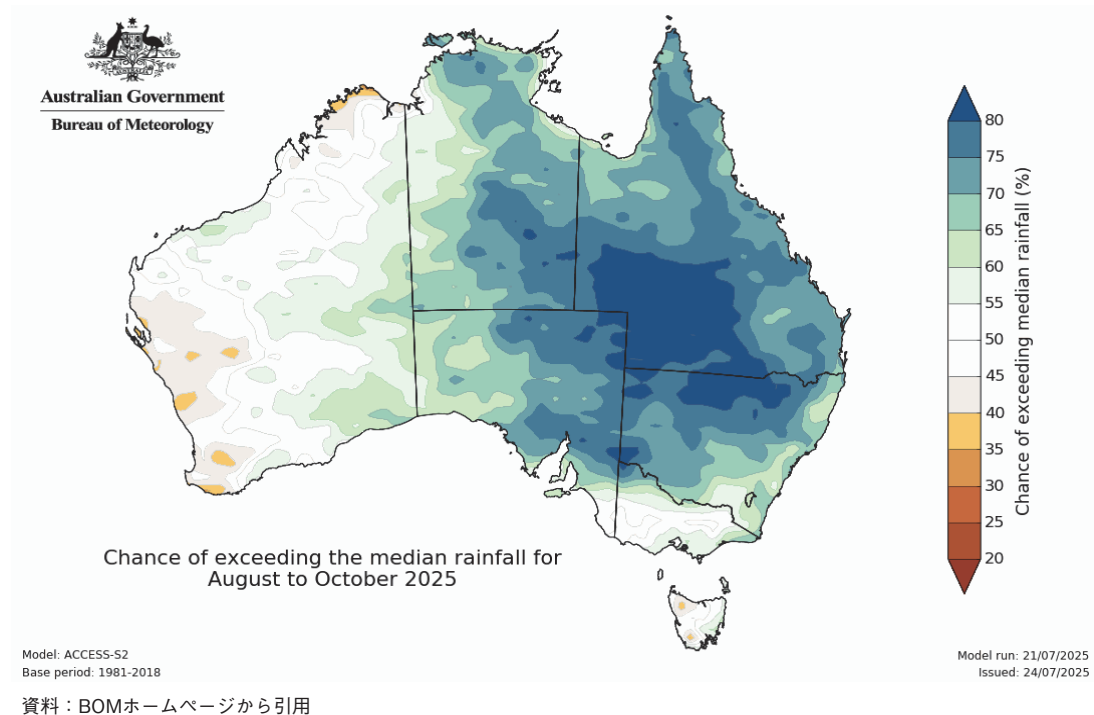
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

広範囲にわたる降雨予測により、今後も牧草の確保が可能と見込んだ牧草肥育農家の肥育もと牛の需要が高まったことを挙げている（図2）。また、この価格上昇を支えているのは、米国向けの加工用牛肉（90CL：赤身率90%のひき肉）の堅調な需要とされており、

7月第4週の同価格は、現地通貨建てとして歴史上初めて1キログラム当たり11豪ドル（1080円）を突破した。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年7月末TTS相場。

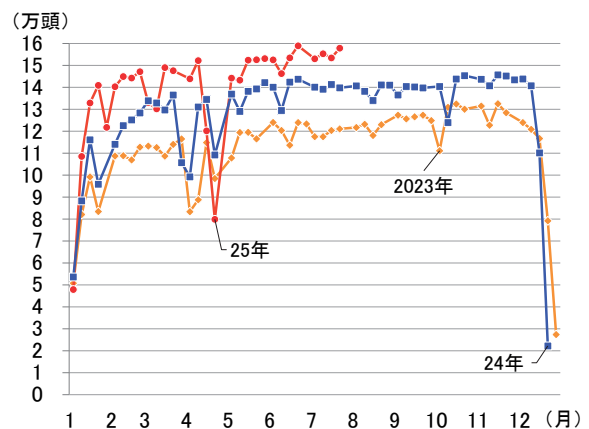
図2 25年8～10月の豪州における降雨予想図



と畜頭数は堅調に推移、24/25年度は過去2番目の高水準

2025年7月の週間成牛と畜頭数は、6月に引き続き高水準で推移しており、7月第4週は15万7840頭（前年同期比12.9%増）を記録した（図3）。MLAによると、24/25年度（7月～翌6月）のと畜頭数（推計値）は879万7513頭と、大規模な干ばつの影響があった14/15年度に続く過去2番目に高い水準とされており、国際市場における堅調な需要がこの結果を生んでいると分析している。

図3 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料: MLA [National Livestock Reporting Service]

注1: 成牛のみ（子牛は含まない）。

注2: 年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

25年6月の牛肉輸出量は最高値を記録、24/25年度も史上最高値

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年6月の牛肉輸出量は13万4596トン（前年同月比26.8%増）と大幅に増加し、単月の数値として最高値を更新した（表）。また、

24/25年度実績でも史上最高値となる144万4377トンを記録した。報道によると、その中でも穀物肥育牛肉が顕著な伸びを見せており、豪州のフィードロット事業の成長と米国の穀物肥育牛肉の生産減が今回の記録更新に寄与したとされている。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名など	2024年 6月	25年 6月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
米国	28,746	35,343	22.9%	203,065	30.6%
中国	13,206	27,265	106.5%	129,258	43.9%
日本	25,611	21,876	▲14.6%	117,762	▲12.1%
韓国	16,088	19,343	20.2%	101,526	13.5%
東南アジア	10,135	13,578	34.0%	67,101	6.0%
中東	2,948	3,132	6.2%	17,833	▲0.3%
E U	1,250	2,723	117.8%	10,182	52.3%
その他	8,143	11,336	39.2%	55,492	23.5%
輸出量合計	106,127	134,596	26.8%	702,219	16.8%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル・ハйма））。

6月の輸出量を輸出先別に見ると、米国と中国向けが顕著に増加した。米国向けは3万5343トン（同22.9%増）と大幅に増加しており、5月の輸出量と比較すると8%下回っているが、以前として高い水準にある。

また、豪州時間8月1日（金）の朝、ランプ米大統領は貿易相手国・地域に新たな相互関税を課す大統領令を発令した。各国の関税率が引き上げられる中、豪州の関税率は10%に据え置かれたことから、引き続き需要は底堅いとみられている。

中国向けは2万7265トン（同106.5%増）と、倍以上の増加となる最大の伸びを記録した。報道によると、米国産牛肉の中国市場

へのアクセスの問題（注2）に加え、中豪FTAに基づくセーフガード発動基準が近づき、中国の輸入業者の駆け込み需要があったためとされている（セーフガードが発動した場合、最恵国待遇関税である12%が適用される）。そのような中、中国海関総署（GACC）は7月24日付で豪州産牛肉の輸入量がセーフガードの発動基準に達したと伝えており、今後の輸出への影響が懸念されている。

（注2）海外情報「輸出需要を背景に若齢牛価格は今期最高値を記録、雌牛と畜割合は上昇」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003783.html）をご参照ください。

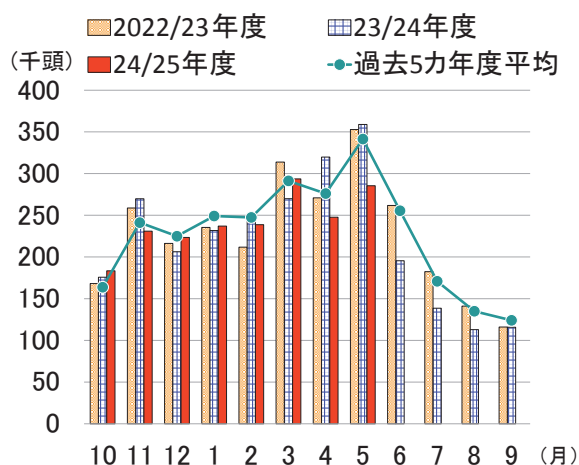
（調査情報部 国際調査グループ）

24/25年度の牛肉生産量と輸出量、前年割れの見込み

25年5月の牛と畜頭数、飼養頭数の減少から前年同月比20.5%減

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年5月の牛と畜頭数は28万5410頭（前年同月比20.5%減）と前年同月を大幅に下回った（図）。と畜頭数の内訳を見ると、去勢牛が4万6355頭（同29.9%減）、雄牛が2万5487頭（同20.7%減）、未經産牛が4万5502頭（同19.2%減）、経産牛が16万8066頭（同17.7%減）と、いずれも減少した。また、24/25年度（10月～翌9月）5月までの累計でも、194万174頭（前年同期比6.5%減）と減少した。この要因としてニュージーランド第一次産業省（MPI）は、生産者支払乳価^{（注1）}が高い水準で推移していることなど、酪農部門での保留傾向が強まっていることなどが影響しているとみている。また、肉牛部門については、22/23年度の干ばつによる早期出荷や繁殖雌牛の淘汰^{（とうた）}から肉牛飼養頭数が減少していることが要因とみられる。

図 牛と畜頭数の推移



資料：Stats NZ

注：年度は10月～翌9月。

（注1）海外情報「フォンテラ社、24/25年度乳価の据え置きと、25/26年度当初乳価を発表（NZ）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004130.html）をご参照ください。

25年6月の牛肉輸出量、前年同月比13.2%減

Stats NZによると、2025年6月の牛肉輸出量は4万2066トン（前年同月比13.2%減）と前年同月をかなり大きく下回った（表1）。輸出先別に見ると、米国向けは1万6831トン（同16.0%減）と大幅に、中国向けは1万779トン（同12.5%減）とかなり大きく、いずれも減少した。この要因としてMPIは、酪農部門での保留傾向が強まっていることで、と畜頭数が減少し、輸出量の減少につながったとみている。

特に中国向けは、同国内のと畜頭数増加による輸入需要の減少や、中国商務部による輸入牛肉に対するセーフガード調査^{（注2）}の影響などから減少したとみられる。

また、日本向けは2486トン（同47.2%減）、24/25年度10月～翌6月までの累計でも2万330トン（前年同期比31.6%減）と、いずれも大幅に減少している。前年度は加工向けで豪州産牛肉の代替としてNZ産牛肉への引き合いが強かったが、豪州産の生産量が高水準で推移していることなどから、NZ産の減少につながったとみられる。

（注2）海外情報「中国商務部、輸入牛肉に対するセーフガード措置実施の調査を開始（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004023.html）をご参照ください。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名		2024年 6月	25年 6月		24/25年 (10月～6月)	
				前年同月比 (増減率)		前年同期比 (増減率)
米国		20,029	16,831	▲16.0%	152,817	3.6%
	冷蔵	676	804	18.9%	8,308	47.0%
	冷凍	19,352	16,026	▲17.2%	144,509	1.9%
中国		12,318	10,779	▲12.5%	99,440	▲27.5%
	冷蔵	365	318	▲13.0%	3,919	▲31.9%
	冷凍	11,952	10,461	▲12.5%	95,521	▲27.3%
カナダ		3,205	3,122	▲2.6%	26,954	64.8%
	冷蔵	137	267	94.5%	1,437	94.5%
	冷凍	3,067	2,855	▲6.9%	25,517	63.4%
日本		4,707	2,486	▲47.2%	20,330	▲31.6%
	冷蔵	763	723.8	▲5.1%	5,680	▲1.5%
	冷凍	3,944	1,762	▲55.3%	14,650	▲38.9%
韓国		1,763	1,072	▲39.2%	13,751	15.7%
	冷蔵	—	—	—	2	▲22.5%
	冷凍	1,763	1,072	▲39.2%	13,749	15.7%
その他		6,435	7,776	20.8%	56,710	9.7%
	冷蔵	1,287	1,312	1.9%	11,836	5.5%
	冷凍	5,148	6,464	25.6%	44,875	10.9%
合計		48,456	42,066	▲13.2%	370,002	▲6.2%
	冷蔵	3,229	3,425	6.1%	31,181	7.0%
	冷凍	45,226	38,641	▲14.6%	338,821	▲7.2%

資料：Stats NZ

注1：積船積重量ベース。

注2：年度は10月～翌9月。

24/25年度の輸出向け牛肉生産量は わずかに減少見込み

ビーフ・アンド・ラム・ニュージーランド（BLNZ）が公表した直近の2024/25年度牛肉需給見通しによると、同年度の輸出仕向け牛と畜頭数は258万頭と前年度並みが見込まれている（表2）。BLNZは、酪農部門は生産者支払乳価が高い水準で推移していることにより保留傾向が強まるため経産牛出荷は

減少するが、肉牛部門では去勢牛と雄牛のと畜頭数が増加することで、酪農部門の減少が相殺されると見込んでいる。また、同年度の牛肉生産量は66万7000トン（前年度比1.6%減）、牛肉輸出量も47万5000トン（同1.5%減）と、いずれも前年割れが見込まれている。これは、24年の干ばつの影響で、24/25年度における輸出向けの牛枝肉重量が前年度に比べてわずかに減少するとの見込みによるもの。

表2 輸出向け牛と畜頭数などの見通し

項目	単位	2021/22年度	22/23年度	23/24年度	24/25年度	前年度比 (増減率)
と畜頭数	千頭	2,656	2,677	2,577	2,578	0.0%
うち去勢牛	千頭	647	654	652	669	2.6%
未経産牛	千頭	515	524	531	533	0.4%
雄牛	千頭	529	503	449	454	1.1%
経産牛	千頭	965	996	944	922	▲2.3%
生産量	千トン	681	696	678	667	▲1.6%
うち去勢牛	千トン	200	206	208	210	1.0%
未経産牛	千トン	126	133	136	132	▲2.9%
雄牛	千トン	159	154	140	138	▲1.4%
経産牛	千トン	195	203	194	188	▲3.1%
1頭当たり枝肉重量	キログラム	256	260	263	259	▲1.5%
輸出量	千トン	480	496	482	475	▲1.5%
輸出金額	百万NZドル	4,794	4,380	4,241	4,896	15.4%
輸出単価	NZドル／トン	9,987	8,839	8,793	10,306	17.2%

資料：BLNZの資料を基に機構作成

注1：と畜頭数、生産量、1頭当たり枝肉重量の2023/24年度は推定値、24/25年度は予測値。

注2：生産量は枝肉重量ベース。

注3：輸出量は船積重量ベース。

(調査情報部 田中 美宇)

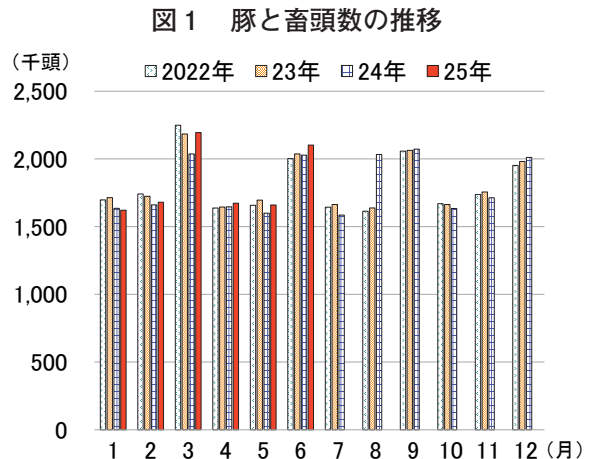
豚 肉

カナダ

25年1～5月の豚肉輸出量、前年同期比5.5%増

25年6月の豚と畜頭数、前年同月比3.7%増

カナダ農務・農産食品省（AAFC）によると、2025年6月の豚と畜頭数は210万2000頭（前年同月比3.7%増）、同年1～6月の累計では、輸出需要が増加する中で1094万3000頭（前年同期比3.3%増）と、いずれもやや増加した（図1）。25年のカナダの豚肉生産量について米国農務省海外農務局（USDA/FAS）は、209万5000トン（前年比0.2%増）と前年並みを見込んでいる。

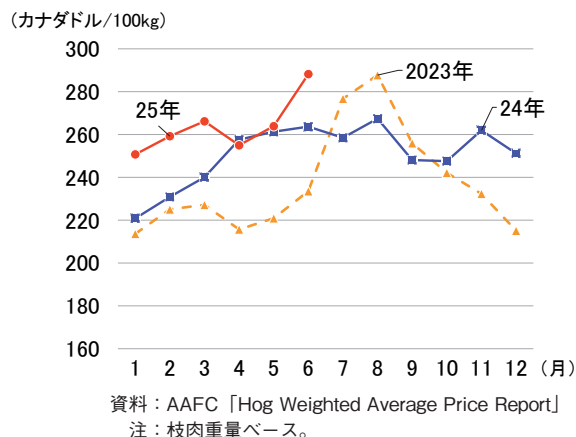


資料：AAFC 「Hog Slaughterings at Federally and/or Provincially Inspected Packing Plants」

25年6月の肥育豚価格、前年同月比9.3%高

AAFCによると、2025年6月の肥育豚価格は100キログラム当たり288カナダドル（1キログラム当たり316円：1カナダドル＝109.59円^{（注1）}、前年同月比9.3%高）、同年1～6月の平均価格は同264カナダドル（1キログラム当たり289円、前年同期比7.4%高）と、米国の肥育豚価格^{（注2）}が上昇している中で、いずれもかなりの程度上昇した（図2）。

図2 肥育豚価格の推移



（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年7月末TTS相場。

（注2）カナダの肥育豚価格は一般的に、米国の肥育豚価格に基づいて算定されるため、同価格の変動による影響を受ける。詳細は畜産の情報「カナダ豚肉産業にみる多様性と肥育豚価格の算定方式をめぐる議論（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000834.html）」をご参照ください。なお、米国では牛肉価格の高騰に伴う代替需要から豚肉価格が上昇しており、肥育豚価格を押し上げているとみられている。

25年1～5月の豚肉輸出量は前年同期比5.5%増

カナダ統計局によると、2025年5月の豚肉輸出量は9万7200トン（製品重量ベース、前年同月比14.6%増）とかなり大きく増加し、同年1～5月の累計では49万9900トン（前年同期比5.5%増）とやや増加した（表）。

5月の輸出量を輸出先別に見ると、日本向けは2万9700トン（前年同月比69.8%増）、韓国向けは9500トン（同78.4%増）と、いずれも大幅に増加した。一方、中国は同年3月20日以降、カナダ産豚肉に対して25%の追加関税を課しており^{（注3）}、同国向けの輸出量は7500トン（同12.2%減）とかなり大きく減少した。

（注3）カナダ政府が2024年10月以降、中国製の電気自動車や鉄鋼、アルミニウム製品の輸入に追加関税を課したことを受けて採られた措置の一部となっている。

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

国名	2024年 5月	25年 5月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
日本	17.5	29.7	69.8%	30.5%	137.0	31.2%
米国	23.4	21.5	▲8.2%	22.1%	108.3	▲8.4%
韓国	5.3	9.5	78.4%	9.8%	47.4	32.0%
フィリピン	7.3	8.9	22.7%	9.2%	36.5	▲17.5%
メキシコ	12.4	8.4	▲32.3%	8.6%	67.3	10.6%
中国	8.5	7.5	▲12.2%	7.7%	44.6	0.5%
その他	10.5	11.8	12.5%	12.1%	58.7	▲10.9%
合計	84.8	97.2	14.6%	100.0%	499.9	5.5%

資料：Statistics Canada
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

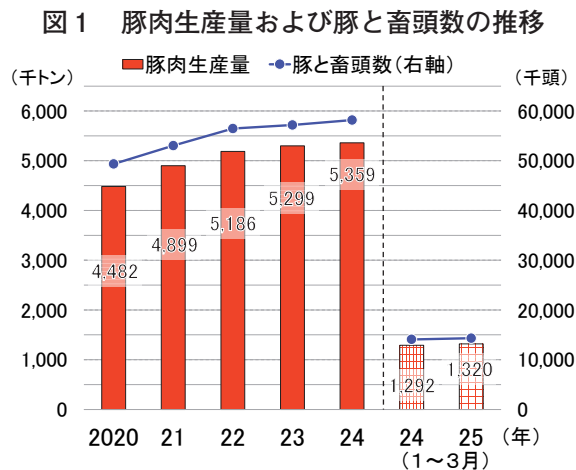
（調査情報部 小林 大祐）

ブラジル

25年1～6月豚肉輸出量、中国向けは減少ながら全体では大幅増

25年1～3月の豚肉生産量、前年同期比2.1%増

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2025年1～3月の豚と畜頭数は1432万5000頭（前年同期比1.6%増）、豚肉生産量は132万トン（同2.1%増）と、いずれも前年同期をわずかに上回った（図1）。



資料：IBGE
注1：枝肉重量ベース。
注2：2025年は速報値。

近年の豚肉生産量は、国内外からの堅調な需要を背景に24年まで11年連続で増加している。

25年の1～6月の豚肉輸出量、前年同期比19.2%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2025年1～6月の豚肉輸出量は63万450トン（前年同期比19.2%増）と前年同期を大幅に上回った（表）。輸出先別に見ると、前年同期で最も輸出量が多かった中国向けは8万4638トン（同27.9%減）と大幅に減少した。中国の経済成長の減速と、中国国内の豚肉生産がやや供給過多であることが、輸出量減少の要因とみられている。一方で、フィリピン向けは14万141トン（同2.0倍）と大幅に増加した。これはアフリカ豚熱（ASF）による影響で減少したフィリピン国内の豚肉生産を補う

表 輸出先別冷蔵・冷凍豚肉輸出の推移

国名	2024年（1～6月）			25年（1～6月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量	輸出額	単価
フィリピン	68,854	161,286	2.34	140,141	338,554	2.42	103.5%	109.9%	3.1%
中国	117,314	243,023	2.07	84,638	179,906	2.13	▲27.9%	▲26.0%	2.6%
香港	41,137	91,531	2.23	54,975	142,349	2.59	33.6%	55.5%	16.4%
チリ	49,799	106,401	2.14	54,968	138,053	2.51	10.4%	29.7%	17.5%
日本	36,943	119,764	3.24	54,926	190,172	3.46	48.7%	58.8%	6.8%
シンガポール	39,588	96,369	2.43	41,134	119,619	2.91	3.9%	24.1%	19.5%
メキシコ	13,467	31,732	2.36	30,611	72,231	2.36	127.3%	127.6%	0.1%
アルゼンチン	4,231	10,626	2.51	28,492	79,967	2.81	573.5%	652.5%	11.7%
ウルグアイ	21,803	50,464	2.31	25,740	71,605	2.78	18.1%	41.9%	20.2%
ベトナム	19,331	44,193	2.29	22,738	57,999	2.55	17.6%	31.2%	11.6%
その他	116,588	251,228	2.15	92,087	208,375	2.26	▲21.0%	▲17.1%	5.0%
合計	529,054	1,206,618	2.28	630,450	1,598,830	2.54	19.2%	32.5%	11.2%

資料：SECEX
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

ためとみられている。その他の輸出先についても、アルゼンチン（同6.7倍）、日本（同1.5倍）、メキシコ（同2.3倍）向けの増加量が特に目立ち、主要輸出先を合わせると、中国向けの減少を補完する以上の増加を記録した。

25年6月の生体豚価格、前年同月比20.4%高

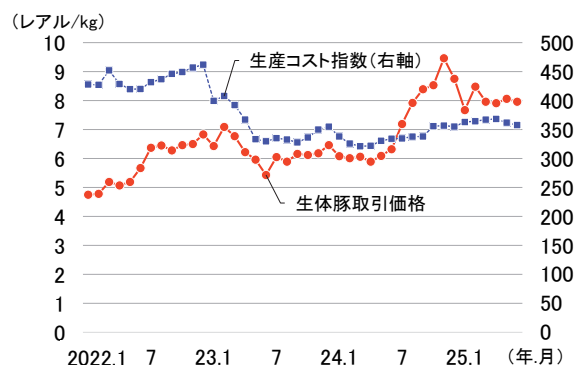
サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2025年6月のブラジルの生体豚取引価格（サンタカタリーナ州：ブラジルの豚と畜頭数の32.9%）は、1キログラム当たり7.96レアル（214円：1レアル＝26.85円^{（注）}、前年同月比25.9%高）となった（図2）。24年のブラジル国内の1人当たり年間豚肉消費量は18.6キログラムと5年連続で増加し、国内需要は堅調に推移している。これと併せて、旺盛な輸出需要も影響し、生体豚取引価格の上昇につながっているとみられる。

また、ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）

によると、同月の生産コスト指数は357.70（同7.1%高）と前年同月をかなりの程度上回ったが、生体豚価格と比較すると上昇率は低い水準にとどまったため、生産者の収益性は改善傾向にあるとみられる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年7月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 生体豚取引価格および生産コスト指数



資料：生体豚取引価格：CEPEA、生産コスト指数：EMBRAPA

注1：サンタカタリーナ州における生体豚取引価格。

注2：生産コスト指数は2005年1月を100とする。

（調査情報部 原田 祥太）

牛乳・乳製品

米 国

25年5月の乳製品輸出、チーズやバターが前年同月比で増加

25年6月の生乳生産量は前年同月比3.3%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年6月の乳用経産牛飼養頭数は946万9000頭（前年同月比1.6%増）とわずかに増加した（図1）。泌乳

能力の高い後継牛の需要が堅調であり、生体価格が上昇していることから、生産者による乳用経産牛の保留傾向が強まっている。

同月の生乳生産量は、乳用経産牛飼養頭数および1頭当たり乳量（同1.7%増）の増加に加え飼料価格が昨年を下回って推移したことにより、872万4000トン（同3.3%増）

とやや増加した（図2）。主要生産州の一つであるテキサス州では、乳用経産牛飼養頭数の増加に伴い、生乳生産量が同9.5%増とかなりの程度増加している。

図1 乳用経産牛飼養頭数の推移

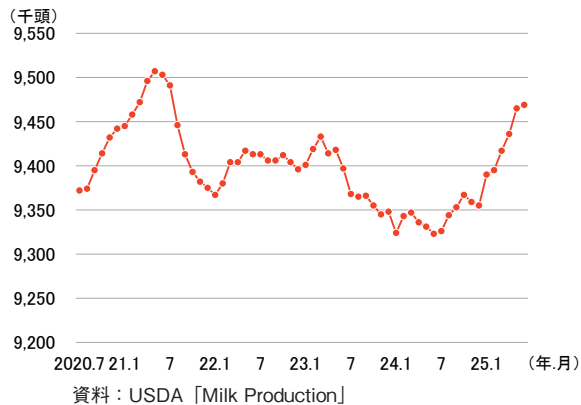
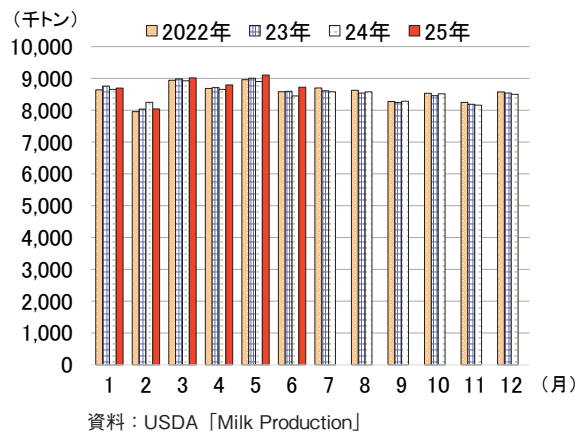


図2 生乳生産量の推移



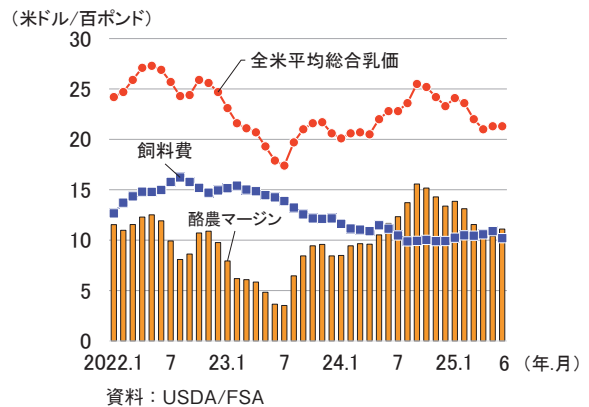
25年5月の全米平均総合乳価、前年同月比3.2%安

米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、2025年5月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり21.3米ドル（1キログラム当たり71円：1米ドル＝150.39円^{（注1）}、前年同月比3.2%安）とやや下落した（図3）。また、同月の酪農マージン^{（注2）}は、乳価の下落幅が飼料費の減少幅を上回ったことから、同10.4米ドル（同34円、同1.1%減）とわずかに減少した。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2025年7月末TTS相場。

（注2）酪農家のセーフティーネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、補填が発動される。

図3 酪農マージンの推移



25年5月の乳製品輸出量、チーズが過去最高を記録

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年5月の乳製品輸出量は、乳脂肪分ベースでは前年同月比25.3%増と大幅に増加し、無脂肪分ベースでは同6.2%減とかなりの程度減少した。

品目別に見ると、脱脂粉乳（NDM）は6万2000トン（同1.7%増）とわずかに増加した（表）。チーズは、最大の輸出先であるメキシコ向けが減少したものの、日本や韓国、中米向けの増加に加え、欧州産などに比べ価格優位性があることなどから、5万1500トン（同7.1%増）と単月で初めて5万トンを上回る輸出量を記録した。また、バターも欧州産などに比べ価格優位性があることなどから、5300トン（同約2.3倍）と大幅に増加した。一方、ホエイは、中国向け輸出量の減少により1万3000トン（同21.5%減）と大幅に減少した。

表 主要乳製品輸出力の推移

(単位：千トン)

品目	2024年 5月	25年 5月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	60.9	62.0	1.7%	273.3	▲13.5%
チーズ	48.1	51.5	7.1%	241.8	7.1%
乳糖	32.7	29.3	▲10.4%	159.3	▲4.9%
ホエイ	16.5	13.0	▲21.5%	76.9	▲1.7%
WPC	13.0	8.4	▲35.7%	50.1	▲25.7%
バター	2.3	5.3	129.7%	24.6	110.2%

資料：USDA「Dairy Data」

注：製品重量ベース。

(調査情報部 大西 未来)

E U

25年5月の生乳出荷量、前年同月をわずかに下回る

25年5月の生乳出荷量は前年同月比0.5%減

欧州委員会によると、2025年5月の生乳出荷量（EU27カ国）は1343万トン（前年同月比0.5%減）とわずかに減少した（表、図1）。国別に見ると、フランス（同1.8%増）は2カ月連続、アイルランド（同6.8%増）

は3か月連続、それぞれ良好な放牧環境や飼料価格の低下により前年同月を上回った。一方、その他の主要生産国は前年同月を下回り、中でもドイツ（同1.8%減）は12カ月連続、オランダ（同0.5%減）は15カ月連続と減少傾向が継続している。

生乳出荷量の減少が続くオランダは、同国統計局によると、25年の暫定調査で酪農家

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

国名	2024年 5月	25年 5月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,897	2,846	▲1.8%	13,497	▲2.7%
フランス	2,154	2,192	1.8%	10,300	▲1.4%
ポーランド	1,225	1,220	▲0.4%	5,768	▲0.4%
アイルランド	1,140	1,218	6.8%	3,676	7.6%
オランダ	1,212	1,206	▲0.5%	5,789	▲1.9%
イタリア	1,180	1,117	▲5.4%	5,519	▲4.3%
その他	3,682	3,625	▲1.5%	17,271	▲1.6%
合計	13,490	13,425	▲0.5%	61,819	▲1.5%

資料：欧州委員会「Eurostat」

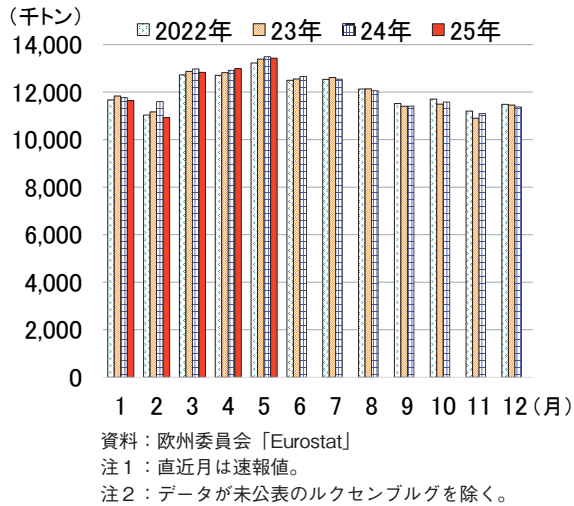
注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

戸数が1万3380戸（前年比3.6%減）に減少しており、依然として環境規制や廃業支援の影響が大きいものとみられる。

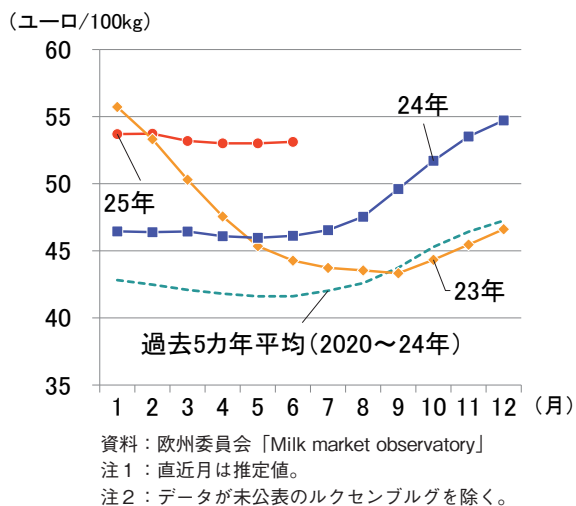
図1 生乳出荷量の推移



25年6月の生乳取引価格は前年同月比15.2%高

欧州委員会によると、2025年6月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり53.12ユーロ（1キログラム当たり91.50円：1ユーロ＝172.25円^{（注）}、前年同月比15.2%高）と14カ月連続で前年同月を上回った（図2）。同価格は、高水準

図2 生乳取引価格の推移



で推移するバターなどの乳製品価格にけん引される形で好調を維持している。

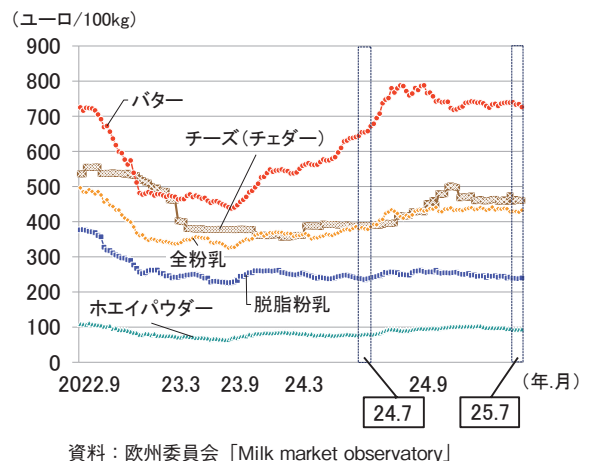
（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年7月末TTS相場。

25年7月第5週のバター価格は前年同期比10.4%高

欧州委員会によると、2025年7月27日の週の製品別乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり726ユーロ（1キログラム当たり1251円、前年同期比10.4%高）、チーズが同460ユーロ（同792円、同18.1%高）、全粉乳が同433ユーロ（同746円、同14.4%高）と前年同期をかなり大きく上回り、高値を継続している。また、脱脂粉乳は同240ユーロ（同413円、同1.0%高）と前年同期をわずかに上回った（図3）。

現地関係者によると、欧州および周辺国のバター需要は非常に強い一方でバター在庫は依然として少なく、生産量も低水準で推移しひっ迫しているため、価格は高水準を維持しているという。

図3 乳製品価格の推移



（調査情報部 渡辺 淳一）

25/26年度の生乳生産量は好調なスタートを切る

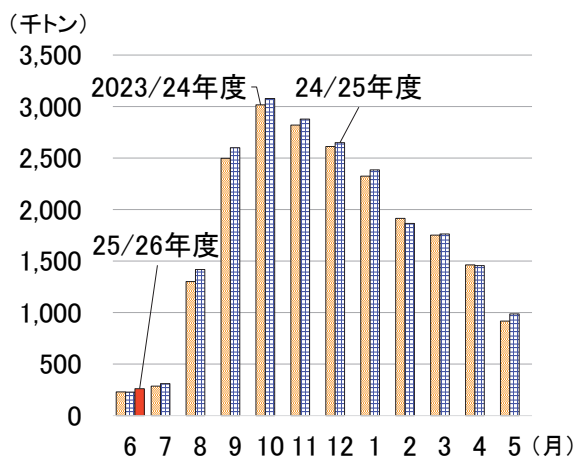
25年6月の生乳生産量、前年同月比14.5%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025/26年度（6月～翌5月）生乳生産の開始となる2025年6月の生乳生産量は26万1000トン（前年同月比14.5%増）とかなり大きく増加した（図1）。6月としては過去最高となり、乾乳期ながら好調なスタートとなった。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、南島の

良好な牧草生育が生乳生産に寄与したことに加え、NZ乳業大手フォンテラ社が提示した25/26年度の生産者支払乳価^{（注1）}が高い水準であったため、酪農家の生産意欲が高まり増加につながったとしている。

また、今後の生乳生産の見通しとしてNZXは、乳牛の分娩が例年よりも早い時期に進んでいることで、生乳生産が増加すると予想している。ただし、8月から10月（冬の終わりから春先）の降雨などで牧草地の状態が悪化した場合は、追加で購入飼料の給与が必要になる可能性もあるとしている。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

（注1）海外情報「フォンテラ社、24/25年度乳価の据え置きと、25/26年度当初乳価を発表（NZ）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004130.html）をご参照ください。

25年6月の脱脂粉乳の輸出量、大幅に減少

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年6月の乳製品輸出量は、脱脂粉乳を除く主要3品目でいずれも前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、全粉乳はシンガポール、中国向けが、バター

表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2024年 6月	25年 6月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	38,143	21,598	▲43.4%
全粉乳	102,622	106,541	3.8%
バターおよびバターオイル	29,304	32,688	11.5%
チーズ	30,943	35,304	14.1%

資料：Stats NZ

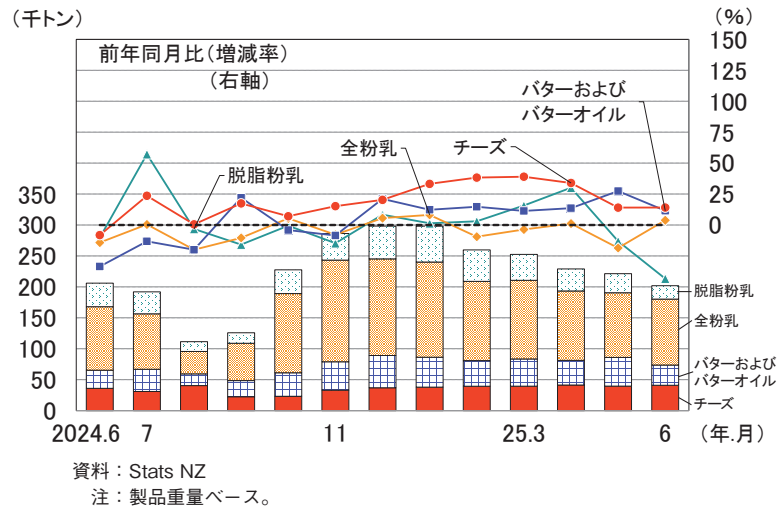
注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

およびバターオイルはオランダ、中国向けが、
チーズは中国、日本向けがいずれも伸びたこ
とで輸出量が増加した。一方、脱脂粉乳は

中国向けが大幅に減少したことで、輸出量が
減少した。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



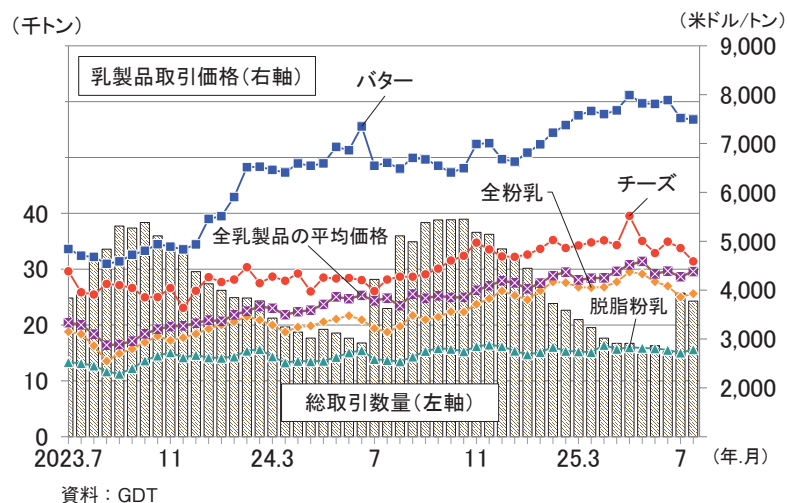
25年7月15日のGDT平均価格、全粉乳および脱脂粉乳で上昇

2025年7月15日開催のGDT^(注2) 平均取引価格は、全粉乳および脱脂粉乳が前回開催時（25年7月1日）を上回った（図3）。東南アジアや豪州からの需要増加から、全乳

製品の平均取引価格は1トン当たり4380米ドル（65万8708円、1米ドル＝150.39円^(注3)、前回比2.5%高）となった。

（注2）グローバルデリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年7月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



（調査情報部 田中 美宇）

中国

25年上期の生乳生産量、乳製品輸入量ともに前年同期比増

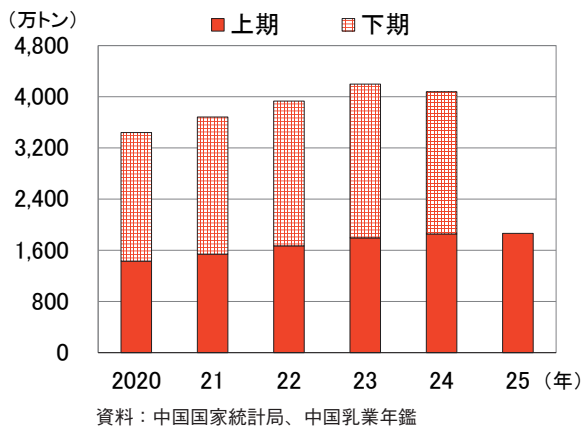
25年上期の生乳生産量、前年同期比0.4%増

中国国家统计局によると、2025年上期（1～6月）の生乳生産量は、前年同期比0.4%増の1864万トンとなった（図1）。

中国の生乳生産量については、例年、上期に比べて下期（7～12月）が2～3割程度増加する傾向にある。このため、25年も同様の傾向で推移した場合、下期の生乳生産量は2200万トンを超え、年間では4100万トン程度になると見込まれる（注1）。

（注1）中国農業農村部の年間生乳生産量の見込みなどについては、海外情報「中国農業展望報告（2025－2034）」を公表（牛乳・乳製品編）（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004144.html）をご参照ください。

図1 生乳生産量の推移



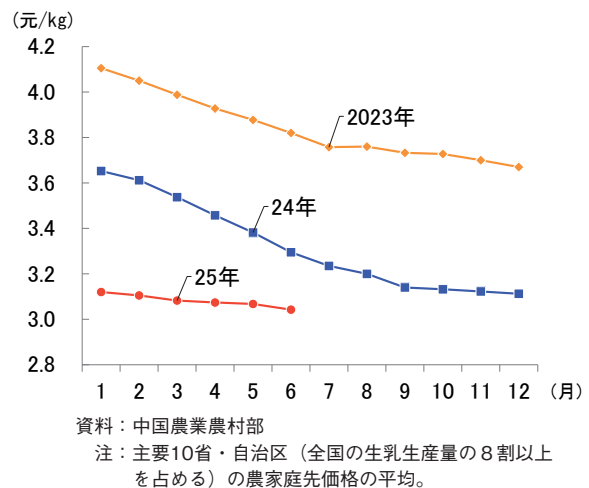
25年6月の生乳価格、前年同月比6.0%安

中国農業農村部によると、2025年6月の生乳価格は1キログラム当たり3.04元（63.93円：1元＝21.03円（注2）、前年同月比6.0%安）と前年同月をかなりの程度

下回った（図2）。25年に入ってから各月当たり0.01元（0.21円）程度の下落で推移していたが、6月は前月から0.03元（0.63円）下落するなどやや下落幅が拡大している。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年7月末TTS相場。

図2 生乳価格の推移



この要因について中国農業農村部は、25年7月に公表した「農産物需給動向分析月報（2025年6月）」の中で、（1）1頭当たり乳量の少ない乳用牛の淘汰が進み、牛群が最適化されつつあること（2）牧草の生育にとって良好な時期を迎えたこと一などから、生乳生産量が増加したためとしている。また、現地専門家は、6月中旬から学校が夏季休暇に入り、給食需要が低下したことも一因としている。一方、中国農業農村部は、（1）乳用牛の淘汰が引き続き行われていること（2）夏季の暑熱ストレスにより乳用牛1頭当たりの乳量が減少すること一などから、今後、短期的には生乳生産量が減少し、生乳価格は安定すると見込んでいる。

25年上期の乳製品輸入量、主要8品目すべてで増加

2025年上期（1～6月）の乳製品主要8品目の輸入量は、全品目で前年同期を上回った（表）。

このうち、主な乳製品輸入量（製品重量）全体の約3割を占めるホエイに目を向けると、25年5月以降は輸入量が前年同月比で減少している（図3）。これは、ホエイ輸入量全体の約半数を占める米国産に対し、中国政府が5月14日以降、追加関税措置を行った影響とみられる。実際に5月以降、米国産の輸入量は全体の4割程度に減少し、オランダやポーランドなど欧州からの輸入量が増加しており、米国産からの切り替えが進んで

いるとみられる。米中間の関税措置は今後も変動が見込まれることから、乳製品需給動向への影響が注視される。

図3 ホエイの輸入量の推移

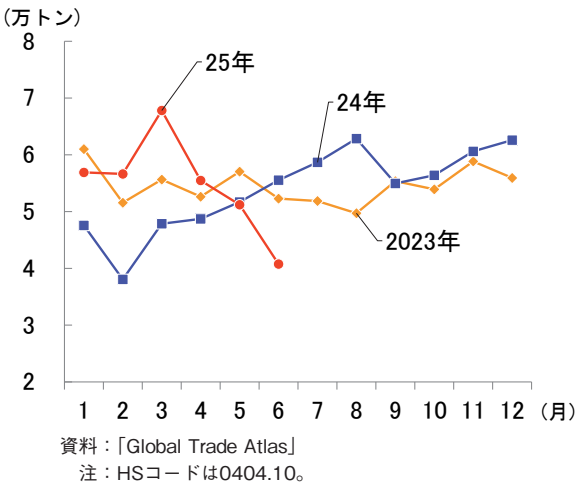


表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

(単位：万トン)

品目	2023年	24年	25年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】 前年同期比 (増減率)
全粉乳	43.1	41.0	25.4	1.5%	19.1%
脱脂粉乳	34.7	22.9	14.0	5.9%	14.0%
飲用乳	54.8	41.7	21.8	9.1%	12.0%
ヨーグルト	1.8	1.6	0.7	25.0%	5.1%
チーズ	17.8	17.3	9.7	10.2%	18.5%
バター	9.3	10.5	5.9	9.5%	37.2%
育児用調製粉乳	23.8	21.6	10.5	8.3%	16.1%
ホエイ	65.6	64.5	32.9	13.6%	15.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と401.20、ヨーグルトは0403.20、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。

(調査情報部 平山 宗幸)

飼料穀物

世界

25/26年度は生産量の下方修正から期末在庫はやや減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年7月11日、25/26年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億6366万トン（前年度比3.1%増）と前月から232万トン下方修正された。主要生産国である米国の下方修正などが反映された。

輸入量は、世界全体で1億8776万トン（同2.7%増）と前月から28万トン上方修正された。主要輸入国はいずれも据え置かれたが、エジプトの上方修正などが反映された。また、中国の輸入量については、同日付で中国農業

農村部は700万トンと公表しており、USDAの予測値1000万トンとは300万トンの乖離^{かいり}がある。

消費量は、世界全体で12億7576万トン（同1.5%増）と前月から3万トン下方修正されたものの、引き続き高水準を維持している。主要国では、米国の下方修正がブラジルの上方修正を上回った。

輸出量は、世界全体で1億9581万トン（同1.7%増）と前月から1万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は、生産量の減少が反映され、2億7208万トン（同4.3%減）と前月から316万トン下方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2025年7月11日米国農務省公表)

(単位: 百万トン)

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
			(6 月 予測)	(7 月 予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.55	44.79	34.68	34.04	▲24.0%
	生産量	389.67	377.63	401.85	398.93	5.6%
	輸入量	0.72	0.64	0.64	0.64	0.0%
	消費量	322.87	319.17	324.75	323.48	1.4%
	輸出量	57.28	69.85	67.95	67.95	▲2.7%
	期末在庫	44.79	34.04	44.46	42.17	23.9%
ブラジル	期首在庫	10.04	8.49	5.99	7.99	▲5.9%
	生産量	119.00	132.00	131.00	131.00	▲0.8%
	輸入量	1.72	1.50	1.60	1.60	6.7%
	消費量	84.00	91.00	93.00	94.00	3.3%
	輸出量	38.27	43.00	43.00	43.00	0.0%
	期末在庫	8.49	7.99	2.59	3.59	▲55.1%
アルゼンチン	期首在庫	2.32	2.48	2.78	2.78	12.1%
	生産量	51.00	50.00	53.00	53.00	6.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.60	15.20	15.60	15.60	2.6%
	輸出量	36.26	34.50	37.00	37.00	7.2%
	期末在庫	2.48	2.78	3.19	3.19	14.7%
ウクライナ	期首在庫	3.00	0.64	0.31	0.31	▲51.6%
	生産量	32.50	26.80	30.50	30.50	13.8%
	輸入量	0.01	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
	消費量	5.38	5.15	6.23	6.23	21.0%
	輸出量	29.49	22.00	24.00	24.00	9.1%
	期末在庫	0.64	0.31	0.60	0.60	93.5%
EU	期首在庫	8.02	7.31	6.33	6.33	▲13.4%
	生産量	61.95	59.31	60.00	60.00	1.2%
	輸入量	19.83	20.00	20.50	20.50	2.5%
	消費量	78.10	77.90	77.80	77.80	▲0.1%
	輸出量	4.39	2.40	3.00	3.00	25.0%
	期末在庫	7.31	6.33	6.03	6.03	▲4.7%
中国	期首在庫	206.04	211.29	197.18	195.18	▲7.6%
	生産量	288.84	294.92	295.00	295.00	0.0%
	輸入量	23.41	5.00	10.00	10.00	100.0%
	消費量	307.00	316.00	321.00	321.00	1.6%
	輸出量	0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%
	期末在庫	211.29	195.18	181.16	179.16	▲8.2%
世界計	期首在庫	305.61	315.69	285.04	284.18	▲10.0%
	生産量	1230.73	1225.30	1265.98	1263.66	3.1%
	輸入量	197.69	182.87	187.48	187.76	2.7%
	消費量	1220.65	1256.81	1275.79	1275.76	1.5%
	輸出量	192.57	192.57	195.82	195.81	1.7%
	期末在庫	315.69	284.18	275.24	272.08	▲4.3%

資料: USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注: 各国の穀物年度 米国: 9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国: 10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル: 3月～翌2月。

(調査情報部 峯岸 啓之)

25/26年度の大豆生産・消費量は増加、 輸出減から期末在庫は上方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年7月11日、25/26年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2768万トン（前年度比1.3%増）と前月から86万トン上方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは前月から据え置かれたが、これに次ぐ米国は、米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）が6月30日に公表した大豆の作付面積減少報告を受けて、前月から14万トン下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8606万トン（同4.8%増）と前月から80万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億1200万トン（同5.2%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6771万トン（同4.1%増）と前月から112万トン上方修正された。このうち、最大の

消費国である中国は1億800万トン（同4.9%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8763万トン（同3.8%増）と前月から80万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは前月から据え置かれたが、これに次ぐ米国は、バイオ燃料向け大豆油の国内需要増加などに加え、ブラジルとの輸出競合などにより前月から191万トン下方修正された。

期末在庫は、24/25年度のブラジルの輸出量修正（前月から240万トン下方修正）などにより同年度の期首在庫が前月から92万トン上方修正されたことなどを反映し、1億2607万トン（同0.8%増）と前月から77万トン上方修正された。

今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の中国の大豆輸入量9580万トンとUSDAの予測値には、前月と同じく1620万トンの乖離がある。国際相場にも影響する同国の輸入動向が注目されている。

表 主要国の大豆需給見通し（2025年7月11日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		
			(6月予測)	(7月予測)	前年度比 (増減率)
米国	期首在庫	7.19	9.32	9.53	2.3%
	生産量	113.27	118.84	117.98	▲0.7%
	輸入量	0.57	0.68	0.54	▲20.6%
	消費量	62.20	65.86	67.77	5.0%
	輸出量	46.27	50.76	47.49	▲6.4%
	期末在庫	9.32	9.53	8.03	▲11.4%
ブラジル	期首在庫	36.82	29.76	33.44	21.3%
	生産量	154.50	169.00	175.00	3.6%
	輸入量	0.87	0.55	0.15	▲72.7%
	消費量	54.41	57.00	58.00	1.8%
	輸出量	104.17	102.10	112.00	9.7%
	期末在庫	29.76	36.11	34.29	2.4%
アルゼンチン	期首在庫	17.00	24.05	24.75	2.9%
	生産量	48.21	49.90	48.50	▲2.8%
	輸入量	7.79	6.50	7.20	10.8%
	消費量	36.58	42.10	43.00	2.1%
	輸出量	5.11	6.10	4.50	▲18.0%
	期末在庫	24.05	24.75	25.45	0.8%
中国	期首在庫	32.34	43.31	44.98	0.4%
	生産量	20.84	20.65	21.00	1.7%
	輸入量	112.00	106.50	112.00	5.2%
	消費量	99.00	103.00	108.00	4.9%
	輸出量	0.07	0.08	0.10	25.0%
	期末在庫	43.31	43.48	44.88	▲0.2%
世界計	期首在庫	101.78	115.31	124.20	8.5%
	生産量	396.93	422.00	426.82	1.3%
	輸入量	178.10	177.59	186.86	4.8%
	消費量	331.01	353.15	366.59	4.1%
	輸出量	177.81	180.73	188.43	3.8%
	期末在庫	115.31	125.12	125.30	0.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

作付面積の減少に伴い生産量は下方修正するも、期末在庫は大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年7月11日、25/26年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

米国内生産量は、作付面積と収穫面積の下方修正に伴い前月から下方修正されたものの、157億500万ブッシェル（3億9892万トン^{（注1）}、前年度比5.6%増）と前年度からやや増加すると見込まれている。

米国内消費量は、127億3500万ブッシェル（3億2348万トン、同1.4%増）と前年度からわずかな増加が見込まれている。

輸出量は、26億7500万ブッシェル（6795万トン、同2.7%減）と前年度からわずかな減少が見込まれている。

期末在庫は、16億6000万ブッシェル（4217万トン、同23.9%増）と前年度から大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、10.8%（同2.1ポイント増）と、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.20米ドル（632円。1キログラム当たり25円：1米ドル＝150.39円^{（注2）}、同2.3%安）と前年度からわずかな下落が見込まれている。

今回の作付面積と収穫面積の下方修正は、米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）が6月30日に公表した作付面積の調査結果に基づいており、作付面積は下方修正ながらも

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2025年7月11日米国農務省公表）

区分	一単位一	2023/24年度	24/25年度 （推計値）	25/26年度			前年度比 （増減率）
				（6月予測）	（7月予測）	参考（換算値）	
作付面積	（百万エーカー）	94.6	90.6	95.3	95.2	38.53（百万ヘクタール）	5.1%
収穫面積	（百万エーカー）	86.5	82.9	87.4	86.8	35.13（百万ヘクタール）	4.7%
単収	（ブッシェル/エーカー）	177.3	179.3	181.0	181.0	11.36（トン/ヘクタール）	0.9%
期首在庫	（百万ブッシェル）	1,360	1,763	1,365	1,340	34.04（百万トン）	▲24.0%
生産量	（百万ブッシェル）	15,341	14,867	15,820	15,705	398.92（百万トン）	5.6%
輸入量	（百万ブッシェル）	28	25	25	25	0.64（百万トン）	0.0%
総供給量	（百万ブッシェル）	16,729	16,655	17,210	17,070	433.60（百万トン）	2.5%
国内消費量	（百万ブッシェル）	12,711	12,565	12,785	12,735	323.48（百万トン）	1.4%
飼料等向け	（百万ブッシェル）	5,843	5,675	5,900	5,850	148.60（百万トン）	3.1%
食品・種子・その他工業向け	（百万ブッシェル）	6,868	6,890	6,885	6,885	174.89（百万トン）	▲0.1%
うちエタノール向け	（百万ブッシェル）	5,478	5,500	5,500	5,500	139.71（百万トン）	0.0%
輸出量	（百万ブッシェル）	2,255	2,750	2,675	2,675	67.95（百万トン）	▲2.7%
総消費量	（百万ブッシェル）	14,966	15,315	15,460	15,410	391.43（百万トン）	0.6%
期末在庫	（百万ブッシェル）	1,763	1,340	1,750	1,660	42.17（百万トン）	23.9%
期末在庫率	（%）	11.8	8.7	11.3	10.8		2.1ポイント増
生産者平均販売価格	（米ドル/ブッシェル）	4.55	4.30	4.20	4.20	24.9（円/kg）	▲2.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

9520万エーカー（3853万ヘクタール、前年比5.1%増）とされ、これは統計が開始された1944年以降で3番目の規模となっている。

また、今回の予測では、24/25年度の米国の消費量が前月から75万トン下方修正され、輸出量が100万トン上方修正されたことから、同年度の期末在庫が25万トン下方

修正され、25/26年度の期末在庫に反映される形となった。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年7月末TTS相場。

（調査情報部 峯岸 啓之）

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

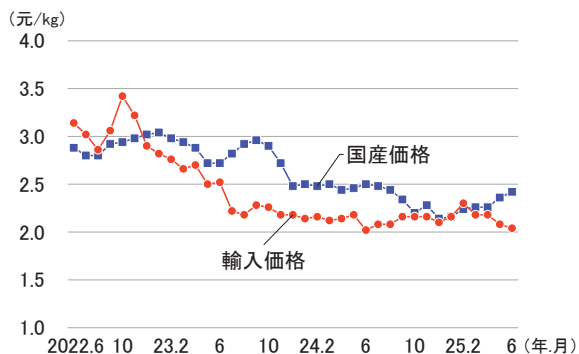
25年6月の国産トウモロコシ価格、国内需給を反映してわずかに上昇

中国農業農村部は2025年7月23日、「農産物需給動向分析月報（2025年6月）」を公表した。この中で、25年6月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに上昇した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では華北地方の在庫水準が低く、東北地方からの供給が断続的に行われるなど、全体的にややひっ迫傾向にあるとされる。一方、需要面では飼料需要やコーンスターチ製造

企業などの需要はやや弱含みであるものの、相対的には高い水準を維持しているとされている。このため、新穀の出荷開始まで国産トウモロコシ価格は安定的に推移しつつも、やや上昇すると見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる^{かんどん}広東省^{こうほ}黄埔港到着は、25年6月が1キログラム当たり2.04元（43円：1元＝21.03円^{（注）}、前月比1.9%安）とわずかに下落した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.42元（51円、同2.5%高）とわずかに上昇したことで、輸入と国産との価格差は広がった。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

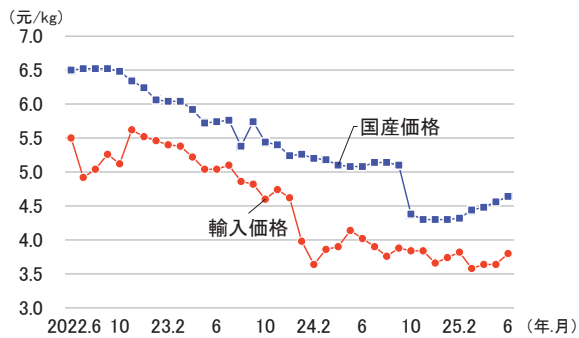
注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

25年6月の国産大豆価格、需要は停滞も在庫の低下でわずかに上昇

2025年6月の国産大豆価格は、前月からわずかに上昇した（図2）。同月の大豆需給を見ると、供給面では産地在庫水準の低下から、備蓄大豆の定期的な放出が報告されている。一方で、需要面では大豆製品の消費が季節的な閑散期のため、製造企業は必要に応じた在庫補充のみ行っているとされている。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

このため、需要は少ないながらも高品質な国産大豆の供給が限られることで、国産大豆価格は安定的な推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省^{こくりゅうこう}の食用向け国産大豆平均取引価格は、25年6月が1キログラム当たり4.08元（86円、前年同月比12.3%安）と前年同月をかなり大きく下回ったものの、前月に続き上昇した。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省^{さんとう}の国産大豆価格は、同4.64元

（98円、同8.7%安）と前年同月をかなりの程度下回ったものの、前月に続き上昇した。同月の輸入大豆価格は同3.80元（80円、前月比4.4%高）となったが、国産価格の上昇幅が輸入価格の上昇幅を上回ったことで、輸入と国産の価格差は拡大した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて低い水準にある。25年（1～5月）の輸入量は3711万トン（前年同期比0.7%減）とわずかに減少した。また、輸入額は同15.4%減の167億700万米ドル（2兆5126億円：1米ドル＝150.39円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の57.3%）、米国（同39.3%）、カナダ（同2.3%）であり、前月までの米国に代わりブラジルが首位となった。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年7月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）